

# 論壇

## グローバル化恩恵偏り

大方の予想を覆して、トランプ氏が米国の大統領に選ばれた。この選挙の結果の背景には、多くの有権者が政治の現状に強い不満を持っていることがあると言われている。

トランプ氏が多くの支持を得たのはラストベルト(さびた帯状の地域)と呼ばれる米国の中西部である。逆にトランプ大統領に強く反発しているのは、カリフォルニアやニューヨークなど、豊かな沿岸部である。カリフォルニアでは、米国から独立すべきだというジョークも出ている。トランプ氏を選

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

ぶような米国にはうんざりだから、カリフォルニアだけ独立しようというのだ。

こうした動きには、ニューヨークやシリコンバレーなどの豊かな都市部と、衰退を続ける伝統的産業を抱える地方の対立という構図が見えてくる。そして同じような構図が、欧州でも見られる。英国

対票を投じた。

こうした動きをあまり単純化して議論することには慎重でなくてはいけないが、なんとなくグローバル化を支える豊かな都市部と、それに乗り遅れて経済的に停滞している地方の対立という共通の構図が見えてくる。グローバル化は社会を大きく変える原動力となっ

## 「都市と地方」、対立の構図

のEUからの離脱に反対したのは、豊かなロンドンの住民だった。離脱を求めたのは経済的に苦しい地方都市や田舎の人々だった。改革派と呼ばれたイタリヤのレンテ

イ首相を支持したのは豊かなトスカリーナや北部の地域の人で、貧しい地域の人の多くは国民投票に反

ている。ただその恩恵は大都市部に集中することが多く、その他の地域にはそうした流れに置き去りにされたという不満が蓄積される

よつだ。日本にとっても、これは重要な問題だ。首都圏や名古屋などの大都市はグローバル化などによって

もたらされた変化によって豊かさ

を増している地域だ。多くの新しいビジネスが生まれ、都市の姿も日々変化を続けている。一方で、多くの地方は、こうした変化に取り残された感覚を強く持っている。それでも、欧米と違って日本の政治が比較的安定しているのは、与党が都市型政党というより、地域に根ざした政党であるからということがあるのかもしれない。

## 保護主義は格差を助長

市場活動が活発になれば、格差も広がる傾向がある。この格差の解消をどのように進めていくのかということが、市場経済を安定化

地域の格差も大きな課題となっている。少なくとも、いま世界の多くの地域で起きている政治的な動きには、地域格差の問題が色濃く出ている。

ただ、問題はトランプ氏や英国の離脱派やイタリヤの改革反対派が主張しているような政策を遂行すれば、地域間の格差が縮まるということにはなりそうもないということだ。トランプ氏が主張してきたような保護主義的な政策を行えば、米国の貧しい地域はさらに厳しいことになる。英国のEUからの離脱は、貧しい地域の人々をさらに苦しめることになる。国民の不満を煽るような政治ではなく、真に地域格差を解消するような政策が行われることを期待したい。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。